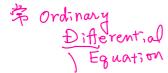
python\_ode



## 数値計算による微分方程式解法(python版)

cc by Shigeto R. Nishitani

- /Users/bob/Desktop/maple\_ode/python\_ode.ipynb
- origin git@github.com:daddygongon/maple\_ode.git (fetch)

#### **Table of Contents**

- 1 Euler法による落下運動
- 1.1 重力場中の運動
- 1.2 Euler法
- 1.3 重力場中の運動をEuler法で解いたら
- 1.4 空気抵抗がある水滴の落下
- 2 高精度計算
- 2.1 バネの運動
- 2.2 2次のRunge-Kuttaの導出
- 2.3 Runge-Kutta2次公式
- 2.4 Runge-Kutta4次公式
- 2.5 連立方程式にRunge-Kutta4次公式を
- 3 RLC回路の応答
- 4 課題
- 4.1 雨粒
- 4.2 大砲
- 5 自由課題
- 5.1 RLC回路
- 5.2 RLC回路

## Euler法による落下運動 ¶

## 重力場中の運動

重力場中のボールの落下を考えて、1軸で考えた運動方程式を立てます。

 $v = \frac{a}{a}$   $a = \frac{a}{a}$ Force

質量をm, 重力加速度をgとして,働く力がF=-mgであるとすると,ニュートンの運動方程式

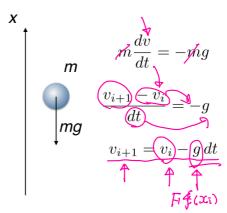
 $F = mal_{\downarrow}$ 

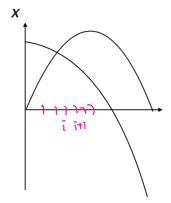
となります.

# が 対 つ と | → は 分 n

# Free gravitation fall

速度 velocity





### Euler法

python\_ode

1次の微分方程式の一般形は



$$\frac{dx}{dt} = f(x, t)$$

と書けます。この微分方程式を簡単な近似から求めるオイラー法を示します。  $x(t+\delta t)$ をテイラー級数 展開すると,

$$x(t + \delta t) \simeq x(t) + \frac{dx}{dt}\delta t$$

となります。これらを代入すると、計算アルゴリズムはつぎのようになります。

$$x_{i+1} = x_i + f_i \, \delta t$$

ここで、 $f_i$ は点 $(x_i,t_i)$ における関数の値です。このアルゴリズムを適用して、 $t+\delta t$ の座標 $x_{i+1}$ を一つ前の時間の座標 $x_i$ から導くことができます。これを重力場中の運動方程式に適用します。

## 重力場中の運動をEuler法で解いたら

Euler法は一階の微分方程式に対する定式化をしています。ところが、重力場中の運動は2階の微分方程式です。このようなときには媒介変数を導入して1次連立方程式に置き直します。

媒介変数として速度vを使って、2階の運動方程式

$$\frac{d^2x}{dt^2} = -g$$

が、1階の連立方程式

$$\frac{dv}{dt} = -\frac{1}{2}$$

$$\frac{dx}{dt} = v$$

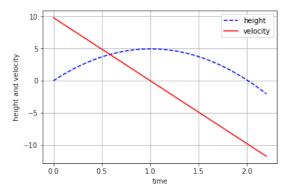
で置き換えられると考えることに相当します。アルゴリズムにすると

$$v_{i+1} = v_i - g dt$$
  
$$x_{i+1} = x_i + v_i dt$$

Eulerは $x_i$ ,  $v_i$ を受け取って,先ほど導いた簡単な計算によって, $v_i$ +1,  $x_i$ +1を順次計算して返します. 結果は,

In [2]: import matplotlib.pyplot as plt

def my\_plot(xx, vv, tt):
 plt.plot(tt, xx, color = 'b', linestyle='--', label="height")
 plt.plot(tt, vv, color = 'r', label="velocity")
 plt.legend()
 plt.xlabel('time')
 plt.ylabel('height and velocity')
 plt.grid()
 plt.show()



2018/06/18 17:15